# 「推し」とファンの関係性

## ―「推す」という「愛」とその正体―

齊藤風韻
HS29-0051B

**目次**

はじめに
第 1 章 :「推す」という概念
1-1. 先行研究―「推す」は「愛」の一種
1-2. 唯一無二の存在
1-3. 代替不可能でありながら補い合う「推し」たち
第 2 章 :「推し」という言葉について
2-1.「推し」を生み育てた母。それは、「推しメン」
2-2. 「推し」についてのアンケート調査
2-3. アンケート結果―
「推し」という言葉の歴史・変遷についての分析と考察
2-4. アンケート結果―
「推し」という言葉が広まった理由についての分析と考察
第 3 章 : 現在の「推し」とファンの関係
3-1. ぬいぐるみ、アクリルスタンドは「推し」の分身
3-2. 半構造化インタビューの結果
3-3. 日常生活に溶け込む「推し」
3-4. “「推し」の概念”とは―あらゆる手段を使って「推し」を日常に
第 4 章 :「推す」という「愛」の正体
4-1.「推す」って、結局のところ何なの？
4-2. 先行研究―「愛は技術」である
4-3. 与えるという「愛」の形
4-4. 何故、「推し」をつくるのか
4-5. 「愛の技術」を学ばせる者たち
結論・おわりに・謝辞
注・参考文献
付録 A :「推し」を持つ、10～60 代のファン 102 人を対象にした調査の結果
付録 B:半構造化インタビューの書き起こし

**はじめに**

近年、「推す」、「推し」という言葉をよく耳にするようになった。「推す」とは、ファン活動として特定の人物・グループなどを応援し、可能な限りの金銭や時間、労力をつぎ込み愛情を注ぐといった意味合いで使われている。また、「推し」とはその対象のことである。

現在当たり前となっている「推し」という存在、「推す」という概念はどのようなものなのか。そして、現代の人々はなぜ「推し」を持ち、「推し」とどのような関係を築いているのか。

そこで私は、「推し」を持つ人々を対象に、インタビュー調査と SNS 上のテキスト分析、アンケート調査を行い、現代社会においての「推し」とファンの関係や「推す」ことの意義について、考察する。そして、最終的に現代社会の中での新たな「愛」のあり方を発見する。

**1.「推す」は「愛」の一種**

筒井は、「推す」という概念には「多数の候補の中から、他でもないその人を選び、推薦する」(筒井 2019)という意味合いが含まれており、それは広義の「愛する」という概念と相似しており、「愛」の一種として捉えられると論じている。

だが一方で筒井は、現在「推しアイス」や「推し文房具」のように、拮抗する同じものの中から特にこれを勧める、という程度の意味で用いられることが一般的になっているため、「推す」を「愛」と捉えることへ疑問も提示している。

しかし、私は「推し」の死や結婚をきっかけにファンの間に精神的苦痛や虚無の感覚・感情が生まれる事例を検討し、「推し」

は唯一無二の存在であり、代替不可能性を含んでいることを指摘する。したがってファンにとって「推し」は、「決して替えがきかない存在」であり、「推す」という行為は「愛」の一種と捉えることが出来ることをあらためて論じる。

## 2.「推し」という言葉の歴史・変遷

アイドルファンの中で使われていた「推し」、「推す」という言葉は現在、一般に普及している。

私はこの普及には、「推し」という言葉自体が要因として影響したと考えられる。

「推し」を持つ 10～60 代の 102 人を対象にアンケート調査を行い、「推し」という言葉の変遷を検証した。

アンケートの結果、94.5%が「推し」を 2011 年以降に使い始めていた。この 2011 年には、日本レコード大賞受賞した AKB48 が、「チーム B 推し」というシングルを発売している。また、第 28 回 2011 年ユーキャン新語・流行語大賞で「推しメン」がノミネートされている。

さらにアンケート結果から、「推し」という言葉は、どんなファンコミュニティでも通じるとい身軽さや幅広さから、時が経つにつれ、アイドルコミュニティの枠を飛び越え普及したことが分かった。その結果、多くの人々が「推し」をつくるれるようになったのである。

## 3.日常生活溶け込む「推し」たち

「推し」を持つ女性の A さんと R さん、2 名に半構造化インタビューを行った。A さんは 22 歳の大学生で、「推し」は俳優の花塚廉太郎、芸人 EXIT の兼近大樹、バンド兼 YouTuber の Non Stop Rabbit の矢野晴人だ。R さんは 21 歳の大学生で、「推し」は韓国のアイドルグループの VIXX だ。

そして、インタビュー調査の結果から、ファンは“「推し」の概念”(「推し」のイメージカラーやモチーフなど、「推し」が連想できる物)を買ったり、身につけたりすることで、「推し」を日常に溶け込ませていることが明らかとなった。

これは、ファンが「推し」を自分の日常生活の中で感じるためにする行為だと言える。

このようにファンはあらゆる手段を使い、日常から「推し」を近くに感じ、「推す」ことを実感しているのである。これは、家族や友人でもない「推し」を「愛する」ための行動と言える。

## 4.「推す」という「愛」の正体

アンケートやインタビュー調査を通して、「推す」ことは、単なる応援ではなく、配慮・責任を持ち、相手に対して尊敬という感情を抱きながら力の限り行動することが分かった。

フロム(1991)によれば、「愛」とは孤独な人間が孤独を癒やそうとする営みであり、現実の社会生活の中で、より幸福に生きるための最高の技術である。また、愛は、人間のなかにある能動的な力であり、したがって「愛」は能動的な「与える」という形をもつ。また、愛の能動的性質を示すのは、「与える」という形の他に、配慮・責任・尊敬・知という要素を持つ。

ならば、「推す」とは「与える愛」なのである。ファンは「推し」からの見返りが目的で「推す」のではない。「推す」という能動的な行為自体に喜びと幸福を感じているのだ。そしてファンは「推し」に「愛」を与えることで、その跳ね返りとして、「推し」から更なる幸福を受け取っているのである。

## 結論

「推す」は「与える愛」であり、人々は、孤立から逃れ、より人生を豊かにするため、幸せを得るために「推し」をつくる。そして、ファンは家族や友人でもない関係の「推し」を愛するために、日常生活の中に「推し」を溶け込ませ、「愛」を与えているのだ。

## 【参考文献】(一部抜粋)

エーリッヒ・フロム(鈴木晶),1991,『愛するということ』紀伊國屋書店.
筒井晴香,2019,「『推す』という隘路とその倫理――愛について」,『ユリイカ』51(18):174-187.